

2025. 11. 11

**TOYOBO**  
Beyond Horizons

# 2025年度 第2四半期 決算説明

東洋紡株式会社  
代表取締役社長  
竹内 郁夫

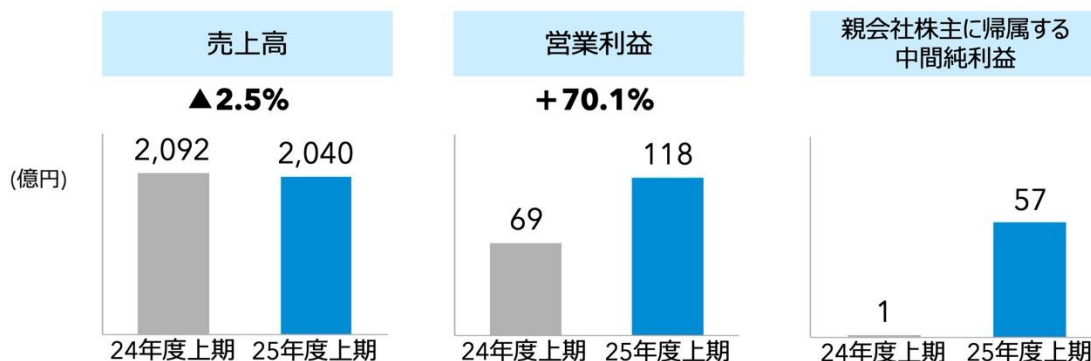
皆さん、こんにちは。社長の竹内でございます。本日は、弊社の決算説明会にご参加いただき誠にありがとうございます。また、平素は弊社をお引き立ていただいておりますことを重ねて御礼申し上げます。

本日は、中間期の決算の概要と通期見通し、それに加えて今年度の経営方針アクションプランの進捗についてもご報告申し上げます。

それでは、決算資料に従いましてご説明申し上げます。

## 第2四半期（中間期）実績

工業用フィルムは堅調持続、包装用フィルムの収益改善も加わり、増益。  
営業利益は 118 億円、中間純利益は 57 億円



## 2026年3月期 通期予想

包装用フィルム、医薬、不織布マテリアルなどの収益改善、および工業用フィルムの需要堅調を踏まえ、  
営業利益 230 億円、当期純利益 65 億円に上方修正

決算のポイントです。2025 年度第 2 四半期の実績は、売上高は減収も、営業利益と中間純利益は大幅増益となりました。全体感として、収益の回復基調の継続、つまり稼ぐ力が着実に向上してきていることを確認できる決算となりました。

売上高は、フィルム事業が増収も、環境・機能材、機能繊維・商事が減収となり、全体としては微減となりました。

営業利益は、前年同期比 49 億円の増益、70%増ということで 118 億円となりました。営業利益率も 2.5 ポイント改善しました。

今回の営業利益の増益はフィルムが牽引しました。工業用フィルムは堅調を持続、包装用フィルムは収益が改善しました。

中間純利益は 57 億円と、こちらも前年同期比大幅増益となりました。

次のページに、四半期ごとの営業利益推移をお示ししています。稼ぐ力が着実に回復してきていることを確認できます。

通期見通しは、包装用フィルム、医薬、不織布マテリアルなどの収益改善と工業用フィルムの需要堅調を踏まえ、営業利益 230 億円、当期純利益 65 億円と、それぞれ前回見通しに比べて 20 億円上方修正します。

# 決算サマリー | PL, CF

TOYOBO

	24年度		25年度	増減		(億円)
	上期	下期	上期	金額	率	
売上高	2,092	2,129	<b>2,040</b>	▲ 51	▲2.5%	
売上総利益	473	498	<b>507</b>	+34	+7.3%	
(率)	22.6%	23.4%	<b>24.8%</b>	-	-	
営業利益	69	97	<b>118</b>	+49	+70.1%	
(率)	3.3%	4.6%	<b>5.8%</b>	-	-	
営業外損益	▲ 38	▲ 23	<b>▲ 17</b>	+20	-	
経常利益	32	74	<b>101</b>	+69	+216.3%	
特別損益	▲ 9	▲ 26	<b>▲ 30</b>	▲ 22	-	
非支配株主に帰属する中間純利益 (控除)	20	12	<b>9</b>	▲ 12	-	
親会社株主に帰属する中間純利益	1	19	<b>57</b>	+56	-	
EBITDA*	181	212	<b>236</b>	+55	+30.5%	* 営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)
EPS (円)	1.3	21.4	<b>65.0</b>	-	-	* 25年度上期は年換算ベース。 (中間純利益×2)÷期首・期末平均自己資本
ROE*	1.0%		<b>5.8%</b>	-	-	
営業活動によるキャッシュ・フロー	171	130	<b>275</b>	+104	-	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 243	▲ 220	<b>▲ 171</b>	+73	-	
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 72	▲ 90	<b>104</b>	+177	-	
減価償却費	112	115	<b>118</b>	+7	+5.9%	
設備投資	250	182	<b>160</b>	▲ 90	▲36.0%	
研究開発費	72	70	<b>68</b>	▲ 4	▲6.0%	

決算サマリー、PL とキャッシュ・フローです。まず、売上高は減収ということで、フィルムは増収でしたが、環境ソリューションの減収、不織布マテリアルや衣料繊維の事業再編と国内生産体制見直しが影響しました。

売上総利益は、改善が継続しています。粗利益率は2ポイント改善しました。販管費は、販売試験費の削減、経費節減の取組みの効果で減少しました。

その結果、営業利益は大幅増益となりました。営業利益率は5.8%と、着実に改善しています。

## 営業外損益・特別損益

TOYOBO

### 営業外損益 内訳

(億円)

	24年度 上期	25年度 上期	増減
受取補償金	5	0	▲ 5
その他	12	14	+2
営業外収益 計	17	15	▲ 2
支払利息	9	14	+5
その他	45	18	▲ 27
営業外費用 計	54	32	▲ 22
営業外損益 計	▲ 38	▲ 17	+20

### 特別損益 内訳

(億円)

	24年度 上期	25年度 上期	増減
関係会社株式売却益	15	-	▲ 15
その他	1	-	▲ 1
特別利益 計	16	-	▲ 16
減損損失	10	-	▲ 10
固定資産処分損	14	10	▲ 4
割増退職金	-	11	+11
退職給付制度改定損*	-	9	+9
その他	1	-	▲ 1
特別損失 計	24	30	+6
特別損益 計	▲ 9	▲ 30	▲ 22

\*一部の連結子会社において退職給付制度の一部を廃止

6

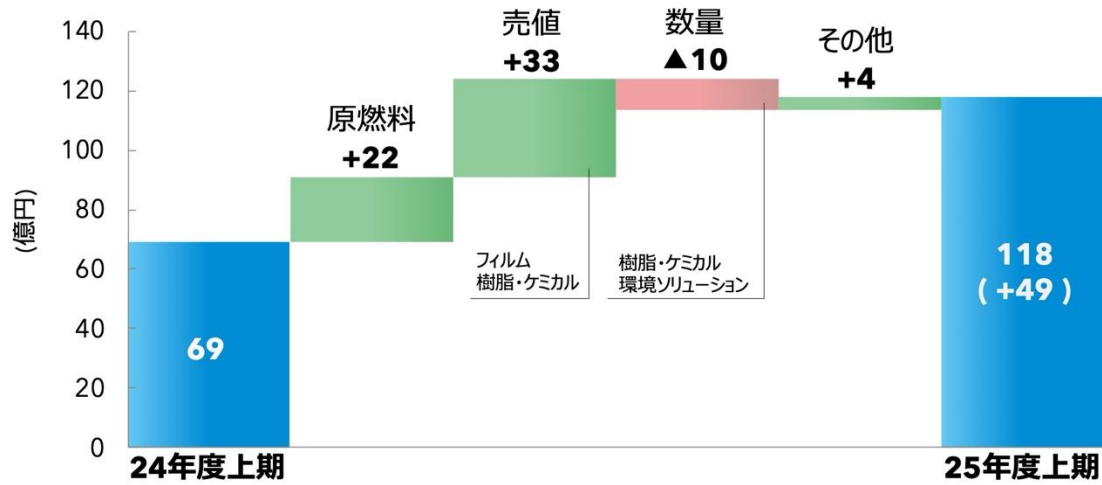
営業外損益、特別損益の内訳を詳しく記載しています。営業外損益は、為替差額、地震の災害関係費の減少などで改善しています。

特別損益は、特益がなくなる一方で、ベテラン社員のセカンドキャリア支援強化のための割増退職金を計上したことから、悪化しました。

営業利益の増加により、税引前中間純利益は改善し、さらに一時的な税金費用の軽減により法人税が減少し、親会社株主に帰属する中間純利益は57億円となりました。

フリー・キャッシュ・フローは、設備投資がピークアウトし、営業キャッシュ・フローが改善したことから、104億円の黒字となりました。

# 営業利益の増減要因



	24年度				25年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
為替レート (円/US\$)	156	148	152	152	144	147
国産ナフサ (千円/kl)	79	77	73	74	65	64

営業利益の増減要因分析です。全体概要として、原燃料価格と売値見直しの効果が増益要因となりました。原燃料価格が落ち着きを見せる一方、製品価格の改定の効果が出ています。過去3年、価値に見合った価格ということで粘り強くお客さまと交渉し、ご理解をいただいております。

数量は、リチウムイオンバッテリー用セパレーター製造工程向けの出荷が好調であったVOC回収装置が減少し、樹脂・ケミカルの自動車関連の一部が減少しました。包装用フィルムも、国内で一部が減少しました。

その他は、減価償却費が増加したものの、新機台の試作費の圧縮、固定費圧縮により増益に寄与しました。

	(B)		(A)	(億円)
	24/3末	25/3末	25/9末	増減 (A)-(B)
総資産	6,070	6,178	<b>6,096</b>	▲ 82
現預金	338	286	<b>260</b>	▲ 25
売上債権	1,028	1,062	<b>929</b>	▲ 133
棚卸資産	1,220	1,190	<b>1,260</b>	+70
有形固定資産	2,815	2,965	<b>3,004</b>	+38
純資産	2,301	2,320	<b>2,348</b>	+27
自己資本	1,970	1,953	<b>1,988</b>	+35
うち利益剰余金	703	690	<b>712</b>	+23
非支配株主持分	331	367	<b>359</b>	▲ 8
有利子負債	2,492	2,679	<b>2,624</b>	▲ 55
D/E レシオ	1.26	1.37	<b>1.32</b>	-
D/E レシオ (資本性調整後) *	-	1.15	<b>1.11</b>	-

\* 劣後ローンおよび劣後債資本性調整後のD/Eレシオ

決算サマリー、BS です。総資産は圧縮も、棚卸資産の圧縮に遅れがあり、下期の課題と認識しています。

フリー・キャッシュ・フローの黒字化により借入金が増え、D/E レシオは改善しています。ただし、財務体質には依然課題があると認識しており、引き続き資産圧縮を進め、資産効率を高めていきます。

## 決算サマリー | セグメント別

TOYOBO

	売上高		営業利益				増減 (A)-(B)	直近予想 (25/08) 上期	
	24年度		25年度		24年度				25年度
	上期	下期	上期	上期	下期	上期			
フィルム	828	840	<b>865</b>	30	39	<b>86</b>	+56	53	
ライフサイエンス	172	171	<b>165</b>	9	11	<b>1</b>	▲ 8	7	
環境・機能材	552	556	<b>507</b>	34	46	<b>31</b>	▲ 3	33	
機能繊維・商事	479	501	<b>444</b>	1	4	<b>2</b>	+1	3	
不動産・その他	60	60	<b>58</b>	12	14	<b>12</b>	+1	11	
消去・全社	-	-	-	▲ 16	▲ 17	▲ <b>15</b>	+2	▲ 17	
合計	2,092	2,129	<b>2,040</b>	69	97	<b>118</b>	+49	90	

9

決算サマリー、セグメント別です。売上高・営業利益ともフィルム事業が牽引しました。売上高はフィルム事業の増収効果が大きい一方、環境ソリューションの減少、不織布材料および衣料繊維の事業再編により、全体では微減収となりました。

営業利益は、フィルムの増益が全体を牽引しました。一方、ライフサイエンス事業が減価償却費増、一部生産性の改善遅れ、海外グループ会社の出荷の期ズレ影響などで大幅減益となりました。下期以降に挽回していきます。

# セグメント別 アクションプランの進捗

TOYOBO

セグメント	アクション（2025年5月時点での計画）	進捗*
フィルム	<b>■包装用フィルムの収益性改善と工業用フィルムの更なる拡大</b> ・包装用フィルム：生産体制見直し、新ライン稼働率アップ、価格改定による収益性改善（黒字化） ・セラコン用離型フィルム：新機台の確実な立ち上げ ・液晶偏光子保護フィルム：増産体制の確立	○ ○ ○
ライフサイエンス	<b>■新ラインの確実な収益化</b> ・バイオ：生化学診断薬用原料酵素の拡販（増産効果） ・メディカル：人工腎臓用中空糸膜の一貫生産工場立上げ・収益化、プロセス膜事業化 ・医薬品製造受託：GMP体制維持。新規受注による収益性改善（黒字化）	▲ ▲ ○
環境・機能材	<b>■東洋紡エムシー（株）：経営基盤の強化から成長策実行へ</b> ・エンジニアリングプラスチック：海外需要の取り込み、製品価格の改定 ・環境ソリューション：BC膜*の販売拡大、VOC回収装置の新用途開拓 * Brine Concentration ・不織布マテリアル：国内生産体制の見直し（黒字化目途）	○ ▲ ○
機能繊維・商事	<b>■収益改善と資産効率の向上</b> ・エアバッグ用基布：収益改善のロードマップ実行 ・衣料繊維：資産効率の改善	○ ○

\* ○：計画通り、▲：遅れ

各論に入る前に、セグメント別のアクションプランの進捗をご説明します。表の見方として、三角のところは、期初目標に対して成果を出せていない課題であり、今期決算での下振れ要因となりました。

バイオは、新設備の稼働により増産できたものの、本来の生産性には至りませんでした。メディカルは、秋田県大館の新工場の立ち上げが遅れています。

環境ソリューションは、BC膜の案件の可能性は増えましたが、VOC回収装置が、LIBS製造工程向け以外の用途開拓を目指しているものの、成果につながっていません。

	(億円)								
	24年度			25年度			上期増減		直近予想 (25/08)
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率	
売上高	421	407	828	446	419	865	+37	+4.5%	900
営業利益	15	15	30	40	46	86	+56	+186.5%	53
(率)	3.6%	3.7%	3.6%	9.0%	11.0%	10.0%	-	-	5.9%
EBITDA	39	39	78	65	71	136	+58	+74.1%	-

## 包装用フィルム

- 食品価格高騰の影響を受けて荷動きは悪化も、新設備の生産性改善を進め、収益が改善

## 工業用フィルム

- 液晶偏光子保護フィルムは、堅調に推移
- セラミックコンデンサ用離型フィルムは、販売が拡大

それでは、セグメント別に詳しくご説明します。

まず、フィルムです。増収、大幅増益となりました。包装用フィルムが改善し、工業用フィルムは収益がさらに拡大しました。

包装用フィルムは、前年同期は赤字でしたが、今期は黒字転換しました。猛暑および食品価格の高騰の影響で消費意欲が減退し、荷動きが悪化しましたが、新機台の稼働率の改善、試験費の減少、価格改定の効果により、収益が改善しました。

工業用フィルムは、主力の液晶偏光子保護フィルム“コスモシャイン SRF”は堅調が持続しています。パネル市場全体は調整局面と認識していますが、“コスモシャイン SRF”の需要は旺盛です。背景は、画面の大型化と、“コスモシャイン SRF”を使用いただいているメーカーが伸びていることです。

旺盛な需要を受け、現在、来年度稼働予定として、機台の広幅化および生産能力増強を目的とした改造工事を実行中です。来年度には 1.3 倍の生産能力となる予定です。

工業用フィルムのもう一つの主力製品であるセラミックコンデンサ用離型フィルムは、需要の回復により、数量が大きく伸びました。

現在、宇都宮工場の新機台を立ち上げ中です。2025 年度 4Q からフル稼働し、2026 年度に生産能力が現行比 2 倍となる予定です。

その他の工業用フィルムも、価格見直しとともに数量が回復し、概ね順調に推移しました。

下期は、“コスモシャイン SRF”の改造工事による影響、包装用フィルムの在庫調整の可能性などを加味し、慎重に見通しています。

	(億円)								
	24年度			25年度			上期増減		直近予想 (25/08)
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率	
売上高	81	91	172	80	85	165	▲ 7	▲ 3.9%	200
営業利益	4	5	9	2	▲ 0	1	▲ 8	▲ 83.6%	7
(率)	4.6%	5.8%	5.3%	2.0%	-	0.9%	-	-	3.5%
EBITDA	12	13	25	11	10	21	▲ 4	▲ 15.9%	-

## バイオ

- 診断薬用原料酵素の生産性改善の遅れにより、収益悪化

## メディカル

- 人工腎臓用中空糸膜は、販売が堅調に推移

## 医薬

- 製品価格の改定により、収益性が改善

ライフサイエンスです。減収減益となりました。バイオは増収しましたが、海外拠点での売上高計上の期ズレ影響を受けました。

バイオは、原料の影響を含む生産性の低下が残りました。現時点では改善にめどをつけており、下期に挽回に向かいます。需要は堅調なため、生産性の改善がポイントです。

メディカルも、人工腎臓用中空糸膜の受注は非常に堅調です。ただし、大館の一貫生産工場の立ち上げの遅れがあり、10月以降、段階的に生産量を引き上げ、来年度には収益寄与させる計画です。

医薬品製造受託は、価格改定で赤字幅が縮小しました、下期に更に回復し、通期で黒字化を目指しています。

ライフサイエンス全体は、上期は遅れていますが、もともと下期型です。季節要因に加え、バイオとメディカルは生産性改善による出荷増を見込み、医薬は4Qに販売を計上する季節性があるため、下期に挽回を計画しています。

	(億円)								
	24年度			25年度			上期増減		直近予想 (25/08)
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率	
売上高	281	272	552	254	253	507	▲ 45	▲ 8.2%	550
営業利益	13	21	34	15	16	31	▲ 3	▲ 9.0%	33
(率)	4.5%	7.7%	6.1%	5.8%	6.3%	6.0%	-	-	6.0%
EBITDA	24	32	56	26	27	53	▲ 3	▲ 5.4%	-

**樹脂・ケミカル**

- エンジニアリングプラスチックは、海外向けの自動車用途の販売が減少も、製品価格の改定が進む
- 工業用接着剤“バイロン”は、塗料・接着用途や電子材料用途の販売が増加

**環境・ファイバー**

- 環境ソリューションは、EV市場減速の影響により、LIBS\*製造工程で使用されるVOC回収装置の出荷が減少
- 不織布材料は、国内生産体制の見直しが進み、収益性が改善

\*リチウムイオン電池セパレータ

環境・機能材、主に東洋紡エムシー（株）です。減収減益でした。

売上高は、前期に大きく伸びた、環境ソリューションの LIBS 製造工程向けの VOC 回収装置が、EV 市場の減速により大きく落ちました。エンジニアリングプラスチックは、海外拠点の一部で、関税の影響により数量が減少しましたが、価格の見直し効果がありました。工業用接着剤は、各用途での数量が増えました。また、不織布材料は、国内生産体制の見直しにより、売上高は減少しましたが、収益は改善しました。一部のグループ会社は、収益が悪化しました。

利益面では、環境ソリューションの大きな落ち込みを、他事業でカバーしきれませんでした。

	(億円)								
	24年度			25年度			上期増減		直近予想 (25/08)
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率	
売上高	240	239	479	219	225	444	▲ 35	▲ 7.4%	450
営業利益	2	▲ 1	1	1	1	2	+1	+52.5%	3
(率)	0.8%	-	0.2%	0.3%	0.4%	0.4%	-	-	0.7%
EBITDA	8	5	14	7	8	15	+1	+9.2%	-

### 衣料繊維

- 中東向け特化生地は、強い需要により販売が増加
- スポーツ用途は、国内生産拠点を集約

### エアバッグ用基布

- 日系顧客のアジアでの減産影響あり

機能繊維・商事です。減収微増益でした。事業の見直しにより売上高が減少しましたが、利益は、東洋紡せんい（株）は改善し、エアバッグ用基布は引き続き赤字ですが、赤字幅はほぼ横ばいでした。

衣料繊維は減収増益であり、資産効率の向上に努めてきた成果が出てきています。中でも、中東向け特化生地は需要が堅調で、販売が増加しました。スポーツ用途は、国内の縫製拠点を中心に集約を進め、収益が改善しました。

エアバッグ用基布は、日系顧客の減産影響があるものの、全体として数量は横ばいで、収益性もほぼ横ばいで推移しました。

以上が、この中間期の実績です。

# 2025年度の事業環境見通し

セグメント	事業	前回見通し (2025年8月時点)	今回見通し	
			対前回*	
フィルム	包装用	前年度並みの需要	▲	荷動きが鈍化
	工業用	液晶偏光子保護フィルムは前年度並みの需要	-	前年度並みの需要
		MLCCはAIサーバー向けを中心に需要拡大	-	AIサーバー向けを中心に需要拡大
ライフサイエンス	バイオ	生化学診断薬用酵素は需要堅調	▲	生化学診断薬用酵素は需要堅調 中国市場の競争激化
	メディカル	人工腎臓用中空糸膜は需要堅調	-	需要堅調
環境・機能材	樹脂・ケミカル	自動車用途は米国相互関税の影響懸念	-	米国相互関税の影響懸念
		電子材料用途は需要回復基調	-	需要回復基調
	環境・ファイバー	VOC回収装置はEV化減速の影響継続	-	EV化減速の影響継続
不織布マテリアルの厳しい競争環境は継続		-	厳しい競争環境は継続	
機能繊維・商事	エアバッグ	アジアの減少に加え、米国相互関税の影響懸念	-	アジアの減少に加え、米国相互関税の影響懸念
共通		国産ナフサ価格は低下傾向	○	国産ナフサ価格は低下傾向

\* 前回見通しに対し、○：改善・拡大、-：想定通り、▲：悪化・減少 15

続いて、2025年度の見通しです。まずは事業環境の見通しです。8月時点に比べて悪化、当社にとってマイナスと考えられる部分に三角を入れています。

包装用フィルムは、食品価格の上昇に伴い消費行動が若干鈍っていることにより、国内の荷動きが悪化し、出荷が前年度割れになるのではないかと見通しました。

バイオは、生化学診断用原料酵素の需要は堅調なもの、中国市場は、医療費圧縮の流れの中で、中国政府主導による集中購買による入札、検査項目の絞り込みがあり、お客さまの診断薬市場への影響が一部懸念されます。

なお、自動車関連は、見通しに変更なしとしていますが、昨今の動きの中では半導体調達の影響が懸念されるため、注視していきます。

## 2025年度 業績見通し

TOYOBO

包装用フィルム、医薬、不織布マテリアルなどの収益改善、および工業用フィルムの需要堅調を踏まえ、営業利益 230 億円、当期純利益 65 億円に上方修正

	24年度		25年度		増減		直近予想 (25/08)	(億円)
	実績	上期	下期	見通し	金額	率		
売上高	4,220	2,040	2,210	<b>4,250</b>	+30	+0.7%	4,400	
営業利益	167	118	112	<b>230</b>	+63	+38.1%	210	
(率)	3.9%	5.8%	5.1%	<b>5.4%</b>	-	-	4.8%	
経常利益	106	101	74	<b>175</b>	+69	+65.2%	155	
特別損益	▲ 34	▲ 30	▲ 25	<b>▲ 56</b>	▲ 21	-	▲ 45	
親会社株主に帰属する 当期純利益	20	57	8	<b>65</b>	+45	+224.5%	45	
EBITDA	394	236	239	<b>475</b>	+81	+20.7%	460	
EPS (円)	22.7	65.0	8.7	<b>73.7</b>	-	-	51.0	
減価償却費	227	118	127	<b>245</b>	+18	+7.9%	250	
設備投資	432	160	150	<b>310</b>	▲ 122	▲ 28.2%	350	
研究開発費	143	68	82	<b>150</b>	+7	+5.2%	150	

16

2025 年度の見通しです。包装用フィルム、医薬、不織布マテリアルの収益改善、および工業用フィルムの需要堅調を踏まえ、通年では営業利益予想を上方修正します。

当期純利益は下期に大きく落ち込む見通しです。営業外利益が減少する一方で、営業外損失が増えることにより営業外収益は悪化する見通しです。また、上期に一時的な税金費用の減少があり、法人税負担が少なかったのですが、下期は通常の税負担になることを予想しています。

# セグメント別見通し

TOYOB0

売上高	24年度 実績			25年度 見通し			通期 増減	直近予想 (25/08)			対25/08予想 通期増減	(億円)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期		上期	下期	通期		
フィルム	828	840	1,668	<b>865</b>	<b>845</b>	<b>1,710</b>	+42	900	850	1,750	▲ 40	
ライフサイエンス	172	171	343	<b>165</b>	<b>205</b>	<b>370</b>	+27	200	210	410	▲ 40	
環境・機能材	552	556	1,108	<b>507</b>	<b>603</b>	<b>1,110</b>	+2	550	620	1,170	▲ 60	
機能繊維・商事	479	501	981	<b>444</b>	<b>496</b>	<b>940</b>	▲ 41	450	500	950	▲ 10	
不動産・その他	60	60	120	<b>58</b>	<b>62</b>	<b>120</b>	+0	60	60	120	0	
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	2,092	2,129	4,220	<b>2,040</b>	<b>2,210</b>	<b>4,250</b>	+30	2,160	2,240	4,400	▲ 150	

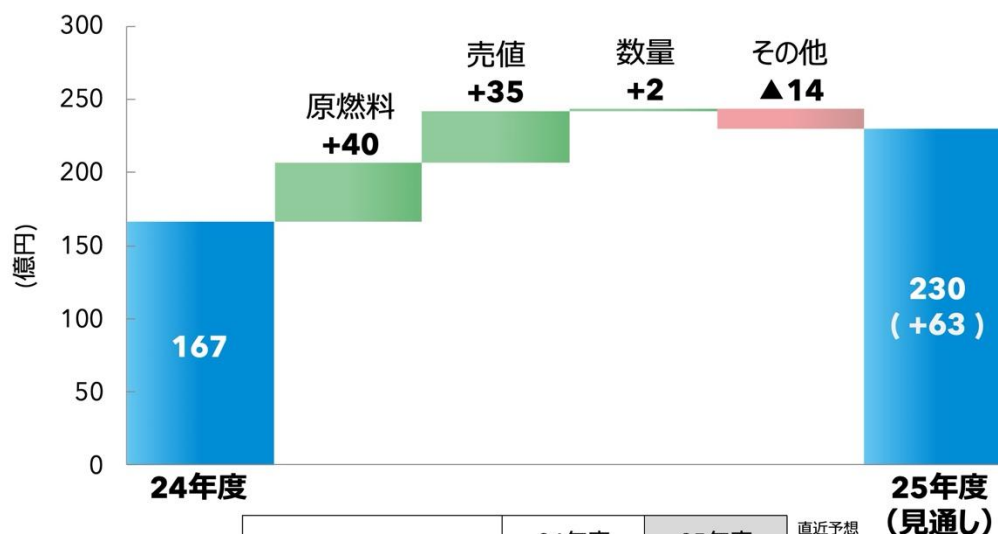
営業利益	24年度 実績			25年度 見通し			通期 増減	直近予想 (25/08)			対25/08予想 通期増減	(億円)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期		上期	下期	通期		
フィルム	30	39	69	<b>86</b>	<b>34</b>	<b>120</b>	+51	53	37	90	+30	
ライフサイエンス	9	11	20	<b>1</b>	<b>24</b>	<b>25</b>	+5	7	28	35	▲ 10	
環境・機能材	34	46	80	<b>31</b>	<b>56</b>	<b>87</b>	+7	33	54	87	0	
機能繊維・商事	1	4	5	<b>2</b>	<b>9</b>	<b>11</b>	+6	3	8	11	0	
不動産・その他	12	14	26	<b>12</b>	<b>10</b>	<b>22</b>	▲ 4	11	11	22	0	
消去・全社	▲ 16	▲ 17	▲ 33	▲ 15	▲ 20	▲ 35	▲ 2	▲ 17	▲ 18	▲ 35	0	
合計	69	97	167	<b>118</b>	<b>112</b>	<b>230</b>	+63	90	120	210	+20	

18

セグメント別で、前回見通しとの差異をお示しします。フィルムは、下期に向けて“コスモシャインSRF”の改造工事、包装用フィルムの数量減により、上期比で減益を見通します。

ですが、下期型のライフサイエンス、環境・機能材は、上期比で増益を見通しています。ライフサイエンスは、前回見通しから下方修正しています。

# 営業利益の増減要因



	24年度	25年度	直近予想 (25/8)
為替レート (円/US\$)	152	149	145
国産ナフサ (千円/kl)	76	64	65

営業利益の増減要因分析です。

下期は、原燃料効果は上期相当が継続も、売値は、昨年度の下期にかなり価格転嫁を進めていたことから、YOY で大きな増益にはならないため、増加幅が上期よりも小さくなる見通します。

数量は、フィルムは減少も、ライフサイエンスと環境・機能材の増加を見込みます。その他は、減価償却費の年間での 18 億円を織り込んでいます。

**I. 2025中期経営計画 当初計画**

- サステナブル・ビジョン2030の前半、「つくりかえる・仕込む4年」の位置づけ
- 4つの施策：
  - ①安全・防災、品質の徹底 ②事業ポートフォリオの組替え ③未来への仕込み ④土台の再構築

**II. 2025中期経営計画 進捗確認**

- 2025年度利益目標から大きく乖離。大型投資先行もあり、財務体質悪化
- 事業ポートフォリオの組替えに遅れ
  - ・成長投資、東洋紡エムシー(株)立上げ、要改善事業対策は着実に実行
  - ・包装用フィルムの収益悪化、複数の投資案件で立上げ遅れ、固定費増

**III. 2025年度以降の取組み ⇒ “2025年度 経営方針 アクションプランの進捗”**

- 要改善事業対策、成長投資の確実な回収、生産性改革・コストダウン  
⇒ 早期に営業利益300億円、ROE 5%への回復
- 新の創出 ⇒ 利益上積み、2030年度までにROE 8%超をめざす

続いて、2025年度の経営方針、アクションプランの進捗です。

2025年5月の説明会で、2025年度以降の取組みとして、経営方針、アクションプランをお示しました。この半年間での進捗をご報告します。

**未来をつくるために稼ぐ力を取り戻す**

(1) 安全・防災、品質、コンプライアンスの徹底 (大前提)	
(2) 価値に見合ったプライシングの徹底	・ 経営によるプライシングの実行フォロー
(3) 要改善事業対策	・ 早期の事業黒字化、正常化に向けた対策実行
(4) 投資の確実な回収と新の創出	・ 成長投資の着実な立上げ、全社フォロー ・ 開発投資の効果実現による利益拡大
(5) 投資・経費の絞り込み、コストダウン	・ 設備投資の圧縮 ・ 全社プロジェクトによる販管費見直し、加工費コストダウン
(6) 使用資本の圧縮	・ 運転資金増の抑制、事業ポートフォリオ改革

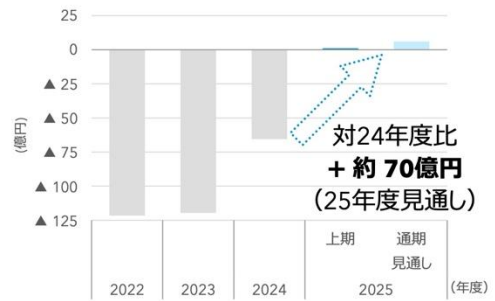
6つのアクションプランのうち、本日は3番目の要改善事業対策、4番目の投資の確実な回収、5番目の投資・経費の絞り込み、コストダウンをご説明します。

黒字化ロードマップ

■ : 赤字    ■ : 黒字

事業	2024年度	2025年度 見通し	2026年度～
衣料繊維	■	■ 更なる資産効率改善の追求	■
医薬品製造受託	■	■ GMP体制維持、更新ライン稼働、新規案件獲得	■
エアバッグ用基布	■	■ タイ原糸工場稼働率向上、生産体制見直し	■
包装用フィルム	■	■ 新機台の早期収益化(全社フォロー) ■ 環境貢献製品へのシフト加速	■
不織布マテリアル	■	■ 開発品の強化 ■ 外部委託生産の拡大	■

営業利益推移 (5事業合計)



2025年度第2四半期において、すでに5事業合計で黒字化。  
正常化に向けた取り組みが、計画通りに進行

要改善事業対策です。国内生産体制の見直しなど、それぞれ着実に対策を進めています。2024年度対比で、2025年度は70億円の増益効果を期待しています。この上期中、5事業の合計で黒字化を達成しました。

衣料繊維は、2023年度から既に黒字化しており、さらに資産効率の改善を進めています。

包装用フィルムは、2024年度上期には大きな赤字でしたが、2025年度上期は黒字化を達成しました。ただ、黒字化がゴールではなく、資本コストを意識してハードルレートを超えるよう、さらに資産効率を高める運営に努めています。

# 2025年度 経営方針 | (4) 投資の確実な回収



## 主な成長投資計画（フィルム、ライフサイエンス）

セグメント	内容	投資金額*1 (億円)	投資効果実現時期（年度）				現況
			2023	2024	2025	2026~	
フィルム	・OPPフィルム 生産設備（犬山）	70					25年度 稼働済 生産性向上中
	・セラコン用離型フィルム 加工設備2号機（敦賀）	60*2					25年度 稼働済
	・セラコン用離型フィルム 製造設備（宇都宮）	200					25年春 商業生産開始 25年度末頃にフル生産を予定
	・液晶偏光子保護フィルム 製造設備（敦賀）*3	-					25年度下期に改造工事 26年度に量産開始を予定
ライフサイエンス	・生化学診断薬用原料酵素 製造設備（敦賀）	70					24年度 稼働済
	・PCR検査試薬・遺伝子診断薬用原料 製造設備（敦賀）	65					25年度 稼働済
	・人工腎臓用中空糸膜 一貫生産工場（秋田）	50					25年10月から販売開始

\*1 概数 \*2 1号機との合算金額 \*3 既存ライン改造

: 計画 : 見通し（25年5月） : 実績

成長投資の確実な立上げにより、早期マネタイズにつなげる  
利益創出 2024年度比 +100億円（2028年度）

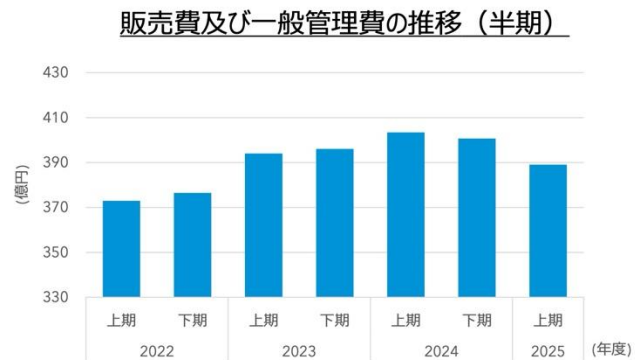
投資の確実な回収です。立ち上げに苦戦している案件もありますが、それぞれに前進しています。ただ、まだまだ課題はある状況です。

実績としてお示ししている中には、本来の生産水準になっていない案件、販売に十分にはつながっていない案件があるため、今後、改善が必要です。重要な案件として、全社経営の視点でのフォローアップを継続します。

大型の設備投資は概ね実行済みです。設備投資の先行により財務体質には負担がかかりましたが、これだけの設備投資を今から実行するとなると同じ金額ではできないでしょう。設備投資案件を成果につなげ、中期的な利益拡大につなげていきます。

全社プロジェクトによる生産性の改革、コスト構造変革（やめる、まとめる、つなげる）  
 利益寄与額 2023年度比 +50億円（2027年度）

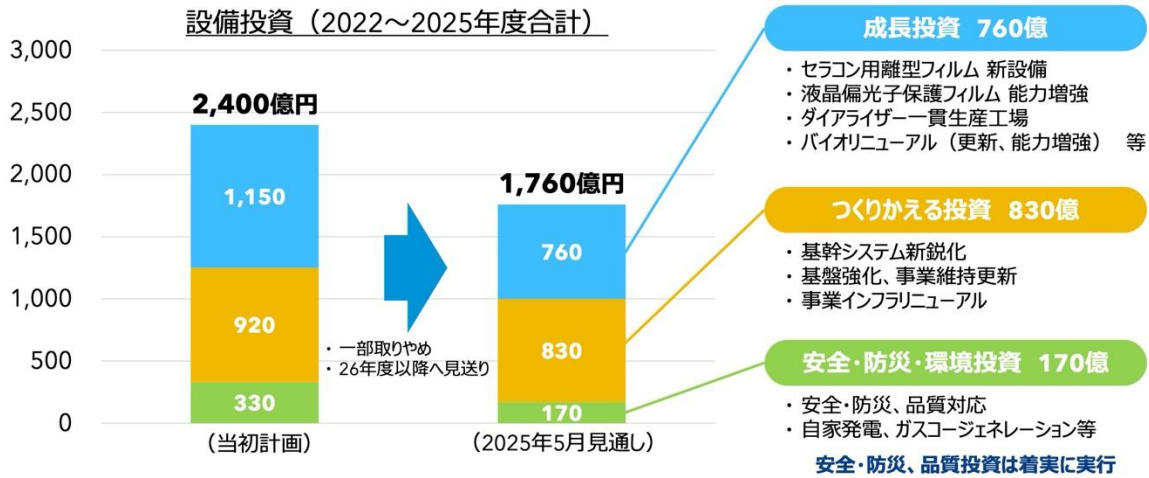
- 間接材費のコストダウン  
 スタッフ部門を中心に、  
 業務委託費の削減など
- 事業所・工場のコスト競争力強化  
 （共通部門費見直し、事業再配置）  
 主要事業所・工場から着手、進行中
- 業務効率・生産性向上  
 （業務品質を上げつつコストを下げる）  
 人材最適配置、  
 データ資産活用の高度化など



経費の絞り込み、コストダウンです。ここ数年、販管費が大きく増加してきたため、この半年間は見直しを進めました。従来から、製造や調達の現場ではコストダウンに全社で取り組んできていますが、今は全社横断で、他のコストダウンにも取り組んでいます。

間接材費のコストダウン、事業所・工場の共通部分のコスト競争力強化、DX を活用した業務効率・生産性の向上です。

現時点で、販管費は着実に減少しています。利益寄与額は 2023 年度比で 2027 年度に 50 億円としていますが、2027 年度まで待たずに一部が今期の収益に貢献しています。今後、労務費対策なども実行していきます。



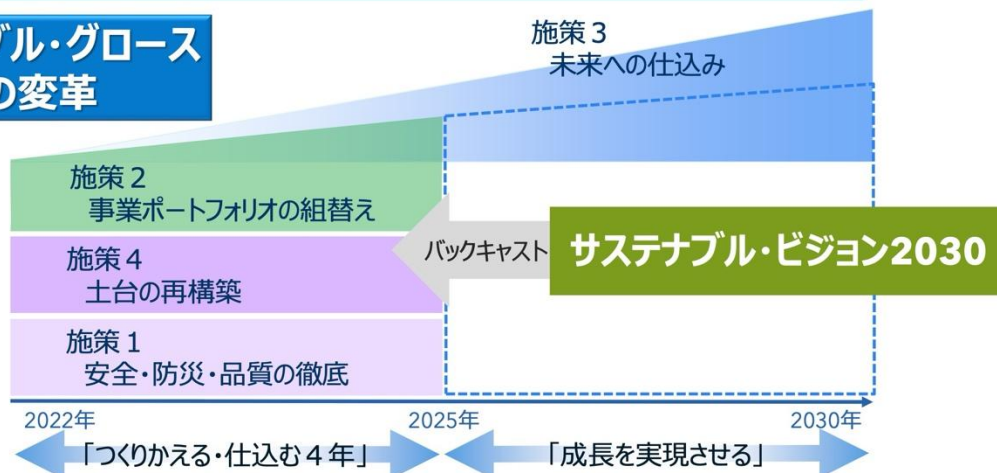
	22年度	23年度	24年度	25年度 見通し	2022～25年度 合計
設備投資（億円）	392	566	452	350	1,760

\*CFベース

投資の絞り込みです。当初計画からは大幅な絞り込みをした水準で、今は運営しています。大型の設備投資はほぼ実行済みであり、今後、設備投資水準はピークアウトしていきます。安全・防災、品質への投資も概ね完了しています。

今後は、老朽化対策はありますが、2025年度の設備投資額 350 億円の水準で運営し、フリー・キャッシュ・フローを確保していきます。

**サステナブル・グロース  
への変革**



**基本方針：**

事業ポートフォリオ改革の実行と投資効果の発現により、  
財務体質改善とROE 8%超をめざす

最後に、次期中期経営計画の位置づけです。2025年度中期経営計画をお示ししたとき、今中計は2030年までの長期ビジョンの中の前半戦として位置づけ、つくりかえる・仕込む4年として取り組んできました。

事業環境変化への対応が遅れ、事業ポートフォリオ改革は一部で計画対比で遅れていますが、土台の再構築、未来への仕込みは着実に実行できていると認識しています。

次の5年は、後半戦ということで、これまでの仕込みや土台からの成果を出していく5年と認識しています。

次期中期経営計画においては、事業ポートフォリオ改革の実行と投資効果の発現により、財務体質の改善と、ROE8%超を目指すことを基本方針とします。現在、経営陣がワンチームとなって策定中です。

2026年5月には、決算のご説明とあわせて次期中期経営計画をご説明しますので、よろしくお願いいたします。

以上、第2四半期の実績と2025年度の見通し、2025年度以降に向けた取組みをご説明しました。統合報告書にも記載の通り、ワンチーム経営でやるべきことをやり抜き、結果を出し、企業価値を高めてまいります。引き続き、皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

補足

27

## セグメント別情報

(億円)

売上高	24年度					25年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q
フィルム	421	407	421	420	1,668	446	419
ライフサイエンス	81	91	85	86	343	80	85
環境・機能材	281	272	283	273	1,108	254	253
機能繊維・商事	240	239	233	268	981	219	225
不動産・その他	29	31	29	32	120	30	28
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-
合計	1,052	1,040	1,051	1,078	4,220	1,029	1,011

営業利益	24年度					25年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q
フィルム	15	15	8	31	69	40	46
ライフサイエンス	4	5	6	5	20	2	▲0
環境・機能材	13	21	23	23	80	15	16
機能繊維・商事	2	▲1	▲0	5	5	1	1
不動産・その他	5	7	6	8	26	5	7
消去・全社	▲7	▲9	▲10	▲7	▲33	▲7	▲8
合計	31	38	32	65	167	56	62

28

**東洋紡グループ統合報告書「TOYOBO REPORT 2025」を公開****主な内容**

- CEOメッセージ
- 長期ビジョン「サステナブル・ビジョン2030」、「2025中期経営計画（2022～2025年度）」
- 価値創造プロセス、東洋紡の強み、液晶偏光子保護フィルムを事例とした価値創造サイクル
- 人材戦略、イノベーション戦略、グリーン戦略、事業戦略
- 社外取締役対談 など

**ダウンロードURL**

日本語版：<https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir/library/integrated.html>

英語版：<https://ir.toyobo.co.jp/en/ir/library/integrated.html>



29

**ご注意**

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

All Rights Reserved

31

**TOYOBO**  
Beyond Horizons

© TOYOBO CO., LTD. All rights reserved.